

第7回 小田川合流点付替え事業 環境影響評価フォローアップ委員会 議事要旨

開催日時：令和5年9月26日（火）10：00～12：00

場 所：倉敷市真備支所1階 101会議室

出席委員：7名のうち6名出席（対面での実施）

議事要旨：

1. 真備緊急治水対策プロジェクト進捗状況

事務局：真備緊急治水対策プロジェクトのうち、国で実施している工事の進捗状況を報告。

■現合流点・縮切堤防

南山は令和5年6月21日に掘削完了。合わせて、県道下原船穂線も同日に供用開始。現在、小田川側の堤防の護岸整備中であり、出水期明けより縮切堤防の整備を予定。なお、縮切堤防の整備に先立ち、令和5年10月29日に現在の小田川の流れを付替え後の小田川へ切り替える通水を予定。

■柳井原貯水池の堤防整備

築堤と護岸整備は概ね完了。親水盛土、河川防災ステーションの基盤、県道バイパス、堤防道路を整備中。排水機場は完成。

■新合流点の橋梁建設

令和4年8月17日に新柳井原橋が開通。下流横提の撤去を含む河道掘削を実施中。

■新合流点の河道掘削

新柳井原橋より下流側について、河道掘削と合わせて築堤・盛土などの堤防整備を実施中。

■小田川の河道掘削

令和3年6月に完了。約300,000 m³を掘削。

■小田川の堤防強化

約11.5kmの内、9.9kmが完成。未整備箇所は順次施工予定。

委員：新合流点の工事の進め方について説明いただきたい。濁水の流入について確認したい。

事務局：10月末の通水に向けて、下流横提の撤去、下流合流地点の掘削・築堤を実施予定である。

濁水影響への対応としては、汚濁防止フェンスを設置した上で、高水敷に沈砂池を設けて濁りを抑えた後、高梁川への排水を行う。

委員：直轄工事では全て BIM/CIM を導入する方針になっていると思われるが、堤防強化等で CIM を導入しているか。

事務局：全ての工事ではないが、施工者の希望を踏まえて CIM を導入している。なお、今年度発注工事より BIM/CIM が指定となったため、締切堤防工事では BIM/CIM を活用し、情報発信や施工の効率化を目指す。

委員：設計、施工時の 3 次元データは、維持管理まで引き継ぎ、問題等が生じた時の調査・点検に活かしていただきたい。そのため、BIM/CIM を積極的に導入し、維持管理を意識した施工をお願いしたい。

2. 環境モニタリング調査結果【令和 4 年 9 月～令和 5 年 8 月】【資料-1】

(1) 大気環境調査

委員：騒音・振動について、生態系への影響は観測されなかったのが大変良かった。今回、異常値は見られなかったが、従来と傾向が異なる値が見られた場合は、比較のためのデータを別途取っておくことで、今後の参考とすることができる。建設機械の設定については、NETIS で低騒音型・低振動型の重機が公表されているため、参考にしてもらいたい。

(2) 水環境調査

委員：今後の陸地部の掘削においては、掘削段階から留意してもらいたい。かつては高水敷に廃棄物を埋めていた時代もある。

事務局：上流は、迂回路での盛土を実施した場所であり概ね状況を把握している。その他、元々の陸地部については慎重な対応を行う。

(3) 動物調査、(4) 生態系調査

委員：堤外水路は在来タナゴ類において、重要な生息環境になっているため、今後通水した時に水枯れや水位低下が起きないように注意していただけるとありがたい。水枯れしなくても水位が低下するだけで、一気にサギ類が集まって餌場になることがあるので注意していただきたい。

事務局：矢形堤外水路については、水位が確保できていない土砂堆積場所を対象として掘削を行い、通水後も水深 40 cm 程度を確保できる生息場所の保全を検討する。通水後にサギ類の餌場になっていないかどうかは、堤外水路沿いの植生を保全する等の河道管理や土砂掘削時のサギ類の飛来状況をモニタリングで注視することを検討する。

委員：サギ類のねぐら調査で確認されたカワウについて、アユへの被害だけでなく、在来タナゴ類を含む希少絶滅危惧魚類の捕食被害も良く聞かれる。今後、カワウが在来タナゴ類の多い場所に移動して来ないか少し気になるため、注視していただけるとありがたい。

委員：タナゴが増えている要因として、小田川の改修工事の点から考えられることはあるか。

委員：タナゴ類が今回増加した要因として、個体数の年次変動が考えられる。今年はその当たり年の可能性があり、次年度は変動範囲内で少し減少するかもしれない。また、水際の植生を残した状態で工事を進めたことで、生息環境が維持されていることも要因である。なお、二枚貝も増えていることから、二枚貝の幼生が寄生する他の魚類も安定的に生息できていると考えられる。

委員：猛禽類はこれまで継続して繁殖し、サギ類も新たなねぐらの利用が確認されていることから問題ない。

(5) 植物調査

委員：現状、柳井原貯水池の水位変動の把握や今後の水位予測が非常に難しいと考えられる。

今後、アサザの追加移植や完成形に誘導する上で、通常水位等の基準が欲しいため、少なくとも工事継続中は柳井原貯水池に水位観測ポイントを設定できると良い。

事務局：水位計の設置を予定し、植物の生育にも利用できるように水位観測を実施していきたい。

委員：アサザの維持管理でホザキノフサモ（在来種）等の水草が除草されているが、魚や水生動物の観点から見ると、水草はそれら動物の良い生息場所となる。また、アサザとは異なる沈水植物であるため、うまく共存させて両種とも残すことは難しいか。

事務局：今回は成長期におけるアサザの葉数が少なかったため、競合種となる水草の除去を実施した。今後はアサザと他の水草との競合状況を見ながら、波田委員の助言・指導も仰ぎ対応を検討したい。

委員：アサザについて、アサザ池は水の濁り・滞留で透明度が低く、水没した場合は光合成が難しい。現時点では、貴重種のアサザを保全するため、競合する水草（普通種）を除草しているが、アサザが一度繁茂すれば他の植物は侵入が困難となる。アサザが繁茂できるような水深等の環境設定を目指し、将来的には自然保護として競合種も含めた生態系を意識した取り組みができると良い。

3. 環境巡視結果の概要【令和4年9月～令和5年8月】【資料-2】

委員：騒音については、低周波音を含め動物にどう聞こえているかは分からないので、引き続き低減できるように留意してもらいたい。

4. その他

委員：今後の環境モニタリング調査について、継続調査とされている項目は令和6年8月までの実施か。それとも、令和6年8月以降も実施予定か。

事務局：モニタリング項目によって、供用後2年まで、あるいは3年目までと様々であるが、本委員会での報告期間として9月～次年度8月までの調査内容を整理している。例えば、「重要種のモニタリング調査（供用後）」では、通年の調査が必要となるため、次年度8月以降も調査を実施する。（資料-1 p3 事業工程参照）

委員：グリーンインフラの観点からも本事業はとても良いモデルである。アピールとして、今後の委員会では河川でのイベントの考え方や住民との交流の回り方等についても話題として取り扱ってはどうか。

事務局：今後は小田川を遊べる、親しむ場所としても発信していきたいと考えている。特に、今回整備している「まびふれあい公園」周辺は、遊ぶには最適な水辺環境であると考えられるため、積極的な交流の場として活用したい。住民の方がもっと川に目を向けて関心を持っていただくイベントも展開していきたい。

以上